



岷江入楚

空輝

卷三

特別
~.2
4604
2



112 号
4604
2

7



空蟬

十六歳 中侍

源氏自中川家傳行中

善木卷力強れ親よりけりてつりけりしなり

中川よりとりけりしなり

同六月比又伴小君宿中川家也

空蟬君与西所方打暮也 西所方侍等也

源氏君垣回見也

小君引導源氏君合通空蟬君宿所脱置衣通也

源氏君人遠逢西所方也 西所方号野嶋我是也

源氏取所衣也

老人君見源氏誤少輔也

源氏還二條院送也 空蟬君も也



宣陣 並 歌の巻名

宣陣の巻をふてけく本下下は人うれあけりてにま

巻並書

うづかの物納し中これ並書日祭又中五つとれ巻並葉の仗
ふとてやも又そ後松の物納と物し並一帖わも昔例也
幾回そま松の並一編と月付の物しみくす横言わく致同
いふれ物納をりてふも並とわりこれと並言わく致同
ふられ宣陣の巻をやまれ真入しと二れ並とわれと草
木の竹と並といふへくもわくす一程よりやくりれけま
も並一帯木うらやまニりふかよりり玉葉打並は横言
あはまうしりり末編を末生は一向横の並とらか
の物納れ並と横とみくすり横松の並と唐とらなれおを
月付よりあへてけりそと横に九並れを意は横の巻た
あつと興入し横横の巻をみくす中院ちゆうえん中書ちゆうしよ尚書
の篇れを依は並れまよおれと彼序云以舞典合於竟

典益稷合於鼻陶煨聖度三篇合の康王三語合於
顧命也也然其是此の並の如くはふらふらり並比
隣近方并配是未嘗ふらふらふの列あり
并ハ合也又詩賦序并序とくけつと帝家記序とわ
いせりといはれし自余あるいし序と後し是ととの並
の如し御お似し

並れ兼いし横よりりてわらふらふらふ物既れか
但し物既れわらふらふ聖れ並るものこころの考あか
事とよりらふらふ事とよりらふらふ又其序に横聖と
かわつてわらふ事痛むれはらふらふ聖日付のゆかり
まて未だはらふらふ聖よりはれわらふけつる也中解
いし聖れ並らふらふらふらふらふ

並れ兼いし横よりりてわらふらふらふ物既れか
但し物既れわらふらふ聖れ並るものこころの考あか
事とよりらふらふ事とよりらふらふ又其序に横聖と
かわつてわらふ事痛むれはらふらふ聖日付のゆかり
まて未だはらふらふ聖よりはれわらふけつる也中解
いし聖れ並らふらふらふらふらふらふ

兼曰並し横聖の何れのもの何れよりりてわらふらふ
係氏以前の物既れ並らふ聖横に何れをあらふらふ横と
女あれはらふらふらふらふらふらふらふらふらふ
横聖と天宮本書云義ノ中一云私謂宣相之法横破
凡史之中執聖破之聖之體得與日横聖之祝儀之考
私云史記不記世家列傳多とに推按するゆ相聖れと
はらふらふ横聖の次本史記をてててててててて
世家の家を也とててててててててててててててて
物既れはらふ横聖はらふらふらふらふらふらふらふ
とてててててててててててててててててててて
其の中横聖の列傳と横聖とてててててててててて
併也其の多記の混亂しとててててててててててて
をりしはらふらふ也周をれ其の如くはらふらふらふ
とてててててててててててててててててててて
とてててててててててててててててててててて
あるこころいし兼 兼聖横後れらふらふらふらふ

と云い絶えたるてとがりきりん
絶れやうあつがもれけかふり荒角あじだて
貞女もろいけいまいよとらえん
こ是又貞女のすべりし

私を三やとてくれあきて
ちいりぬゆいおつこも
依こいぬたのこ糸院の東院
衆曰い何なるをよごりて中川の存りれ
實意ある成言を耶志を中百位し
物段の魚をとうしあふぬつ

私を三とてとらきりん
子細あつこととらきりん
私いんはきりん
こまよとけいし
うねつと
懐哉
憶哉
いと早記

んうしとまのりす
きりん
つらつと

うねつと
まのり
紀伊國

衆曰い何なるをよごりて中川の存りれ
實意ある成言を耶志を中百位し
物段の魚をとうしあふぬつ

火のいん
秋葉
わ車
かくる
よわ

この子もおぼれまると 海氏のふ小君れおさるはせらるる
はのそてあやうくおぼれまると

えれとむまゝもせれと 海の小君れおさるわうと
おぼれまゝもせれと 海の小君れおさるわうと
おぼれまゝもせれと 海の小君れおさるわうと
おぼれまゝもせれと 海の小君れおさるわうと

おぼれまゝの 小君れおさる

こつりわらひまると 海の小君れおさる
おぼれまゝもせれと 海の小君れおさる

おぼれまゝもせれと 海の小君れおさる
おぼれまゝもせれと 海の小君れおさる
おぼれまゝもせれと 海の小君れおさる
おぼれまゝもせれと 海の小君れおさる

おぼれまゝもせれと 海の小君れおさる
おぼれまゝもせれと 海の小君れおさる

おぼれまゝもせれと 海の小君れおさる
おぼれまゝもせれと 海の小君れおさる

おぼれまゝもせれと 海の小君れおさる
おぼれまゝもせれと 海の小君れおさる

博覧志竟 造園墓 寺期字亦作墓 一云年造
晋中興書云園墓竟葬以教恩也

同まゝに基のゆゑをわらわす源よりつづいて
とて居るよしとされ孫よりつづいてとるまじの又基
と精女おまねた男ととてつづいてつづいてのまねの
とんとのつづいて中野の基ととてつづいてつづいて
新銘の基は根柢のわらわすつづいてつづいてつづいて

そとけいひわつてん 海の基うらやまのつづいてつづいて

この入つてつづいて 小君のつづいてつづいてつづいて

かゝるつづいてつづいて 秘受日と

うらつてつづいて 木下つづいてつづいてつづいて

火らつてつづいて 火乃をさつてつづいてつづいてつづいて

我らつてつづいて 我らつてつづいてつづいてつづいて

このつづいてつづいてつづいてつづいてつづいて

白ふつづいてつづいてつづいてつづいてつづいて

おとつづいてつづいてつづいてつづいてつづいて

つづいてつづいてつづいてつづいてつづいて

つづいてつづいてつづいてつづいてつづいて

つづいてつづいてつづいてつづいてつづいて

つづいてつづいてつづいてつづいてつづいて

つづいてつづいてつづいてつづいてつづいて

つづいてつづいてつづいてつづいてつづいて

つづいてつづいてつづいてつづいてつづいて

うらのみりてあや思ふうめくうしはあはれいふ
まろまねくもいふとそはり 并花はうまきなり
花の程はしきあつし 兼花程うらむる程
何れあらんうらうら

并ひんまねのうらうらさばもまし 一様毎平 又程り
但かつけしあ分明何れあつし

必ひんまねのうらうらさばもまし 程中れもあつし
えつね 兼白只灯下彷彿之故衣服不可更替

必かまもてわらひしひん 兼同
必兼同乃用意少き神也 兼同

必兼同乃用意少き神也 兼同
兼同乃用意少き神也 兼同

必兼同乃用意少き神也 兼同
兼同乃用意少き神也 兼同

必兼同乃用意少き神也 兼同
兼同乃用意少き神也 兼同

必兼同乃用意少き神也 兼同
兼同乃用意少き神也 兼同

必兼同乃用意少き神也 兼同
兼同乃用意少き神也 兼同

必兼同乃用意少き神也 兼同
兼同乃用意少き神也 兼同

必兼同乃用意少き神也 兼同
兼同乃用意少き神也 兼同

必兼同乃用意少き神也 兼同
兼同乃用意少き神也 兼同

必兼同乃用意少き神也 兼同
兼同乃用意少き神也 兼同

必兼同乃用意少き神也 兼同
兼同乃用意少き神也 兼同

必兼同乃用意少き神也 兼同
兼同乃用意少き神也 兼同

必兼同乃用意少き神也 兼同
兼同乃用意少き神也 兼同

必兼同乃用意少き神也 兼同
兼同乃用意少き神也 兼同

業りあまきおれわけてゆくわなをて

ゆてこいしや 源の目

あつてろ 小君の目こみていとおをうとみく

わあつこ入り付あ 新これ花の入りつらと

ゆてあひつづつよ 業は源のいよ小君のトおうおのれ

定て中降し細ゆると掛りあ

ゆのんえつるも 小君は花をれをてあうおの分別

われはまろじあつかりあひあひあうおれと源の

あをゆつてつる目 花こつらの目 小君の目女の目

あつたつづくよ 同を思ふとい但思のん

あつたつづくよ 小君の目女の目

あつたつづくよ 業は源の目

あつたつづくよ 小君の目女の目

あつたつづくよ 業は源の目

あつたつづくよ 小君の目女の目

あつたつづくよ 業は源の目

あつたつづくよ 小君の目女の目

あつたつづくよ 業は源の目

あつたつづくよ 小君の目女の目

あつたつづくよ 業は源の目

あつたつづくよ 小君の目女の目

あつたつづくよ 業は源の目

あつたつづくよ 小君の目女の目

あつたつづくよ 業は源の目

あつたつづくよ 小君の目女の目

あつたつづくよ 業は源の目

あつたつづくよ 小君の目女の目

あつたつづくよ 業は源の目

あつたつづくよ 小君の目女の目

あつたつづくよ 業は源の目

あつたつづくよ 小君の目女の目

あつたつづくよ 業は源の目

あつたつづくよ 小君の目女の目

あつたつづくよ 業は源の目

あつたつづくよ 小君の目女の目

いひえたるを面白く

暮らつて君 **秘** 新にれ疾也 **秘** 兼国小君のこゝろいもるを

市降のち富よとまていんをまてわさせとておんし

いふまが **秘** 兼国より **秘** 兼国をよとて市降のわや

わつと人のほやま **秘** 兼国をよとて市降のわや

とまて申らん **秘** 兼国をよとて市降のわや

わ **秘** 兼国をよとて市降のわや

かろけいひの **秘** 兼国をよとて市降のわや

ふかまわらひ **秘** 兼国をよとて市降のわや

わ **秘** 兼国をよとて市降のわや

うら **秘** 兼国をよとて市降のわや

す **秘** 兼国をよとて市降のわや

た **秘** 兼国をよとて市降のわや

お **秘** 兼国をよとて市降のわや

お **秘** 兼国をよとて市降のわや

わ **秘** 兼国をよとて市降のわや

秘 兼国をよとて市降のわや

秘 兼国をよとて市降のわや

秘 兼国をよとて市降のわや

秘 兼国をよとて市降のわや

秘 兼国をよとて市降のわや

秘 兼国をよとて市降のわや

秘 兼国をよとて市降のわや

秘 兼国をよとて市降のわや

秘 兼国をよとて市降のわや

秘 兼国をよとて市降のわや

秘 兼国をよとて市降のわや

秘 兼国をよとて市降のわや

秘 兼国をよとて市降のわや

秘 兼国をよとて市降のわや

秘 兼国をよとて市降のわや

秘 兼国をよとて市降のわや

秘 兼国をよとて市降のわや

第源の菘よりいふを以て

是の初めの菘の神は福してうらひあつたの神也
多ありてあして 秘 源の神を以て

第回正官の菘の神を以てあつたの神也
又ゆる人にして 秘 友と見ると神にあらはるる

とれでうらひあつた 秘 ねとらむる神也

女の子の菘を以てあつたの神を以てあつた人の
ふんは福してあつた神は福してあつた

してあつた神は福してあつた神は福してあつた
秘 友と見ると神にあらはるる

第回正官の菘の神を以てあつたの神也
又ゆる人にして 秘 友と見ると神にあらはるる

とれでうらひあつた 秘 ねとらむる神也

女の子の菘を以てあつたの神を以てあつた人の
ふんは福してあつた神は福してあつた

してあつた神は福してあつた神は福してあつた
秘 友と見ると神にあらはるる

第回正官の菘の神を以てあつたの神也
又ゆる人にして 秘 友と見ると神にあらはるる

とれでうらひあつた 秘 ねとらむる神也

女の子の菘を以てあつたの神を以てあつた人の
ふんは福してあつた神は福してあつた

してあつた神は福してあつた神は福してあつた
秘 友と見ると神にあらはるる

第回正官の菘の神を以てあつたの神也
又ゆる人にして 秘 友と見ると神にあらはるる

とれでうらひあつた 秘 ねとらむる神也

女の子の菘を以てあつたの神を以てあつた人の
ふんは福してあつた神は福してあつた

してあつた神は福してあつた神は福してあつた
秘 友と見ると神にあらはるる

第回正官の菘の神を以てあつたの神也
又ゆる人にして 秘 友と見ると神にあらはるる

とれでうらひあつた 秘 ねとらむる神也

おとあらしく
くろくしつあまのよれを
とらふりくそ 秘 小君をふんじ保まふし
美田小君のまはすく

まろろとらふ 秘 小君のよれを
長中よこにあふ 秘 けしかりそ小君を
秘 三井のまはす

けしかりそ 秘 けしかりそ
とらふく 秘 小君の本を
とらふく 秘 小君の本を

あふ 秘 小君の本を
君をく 秘 小君の本を
人のつけれ 秘 小君の本を

又けしかり 秘 小君の本を
秘 い女のうらと 秘 又母れ
花よりか楊の 秘 侍者
侍者 秘 白氏文集

遊仙窟云 遊楽 渠也 係也

第一後よふいふ 秘 第一後よふいふ
うをけ 秘 第一後よふいふ
お人の原 秘 第一後よふいふ
か楊の 秘 第一後よふいふ
あわ 秘 第一後よふいふ
乃 秘 第一後よふいふ
い 秘 第一後よふいふ
七 秘 第一後よふいふ
さ 秘 第一後よふいふ
た 秘 第一後よふいふ

あけ 秘 第一後よふいふ
い 秘 第一後よふいふ
は 秘 第一後よふいふ
は 秘 第一後よふいふ
は 秘 第一後よふいふ

小君をよび候はしと云ふはしりしめしむと云ふは御所の
いと先をうらむと云ふ

いづれいさかすまふやうの御所をわたり候はしりしめしむと云ふは
とくくいとまふりてせしむる御所の御所をうらむと云ふは
御所をわたり候はしりしめしむと云ふは

御所の御所をうらむと云ふは
御所の御所をうらむと云ふは
御所の御所をうらむと云ふは

御所の御所をうらむと云ふは
御所の御所をうらむと云ふは
御所の御所をうらむと云ふは

御所の御所をうらむと云ふは
御所の御所をうらむと云ふは
御所の御所をうらむと云ふは

御所の御所をうらむと云ふは
御所の御所をうらむと云ふは
御所の御所をうらむと云ふは

すまひの御所の御所をうらむと云ふは
すまひの御所の御所をうらむと云ふは

すまひの御所の御所をうらむと云ふは
すまひの御所の御所をうらむと云ふは

すまひの御所の御所をうらむと云ふは
すまひの御所の御所をうらむと云ふは

すまひの御所の御所をうらむと云ふは
すまひの御所の御所をうらむと云ふは

すまひの御所の御所をうらむと云ふは
すまひの御所の御所をうらむと云ふは

すまひの御所の御所をうらむと云ふは
すまひの御所の御所をうらむと云ふは

すまひの御所の御所をうらむと云ふは
すまひの御所の御所をうらむと云ふは

すまひの御所の御所をうらむと云ふは
すまひの御所の御所をうらむと云ふは

すまひの御所の御所をうらむと云ふは
すまひの御所の御所をうらむと云ふは





